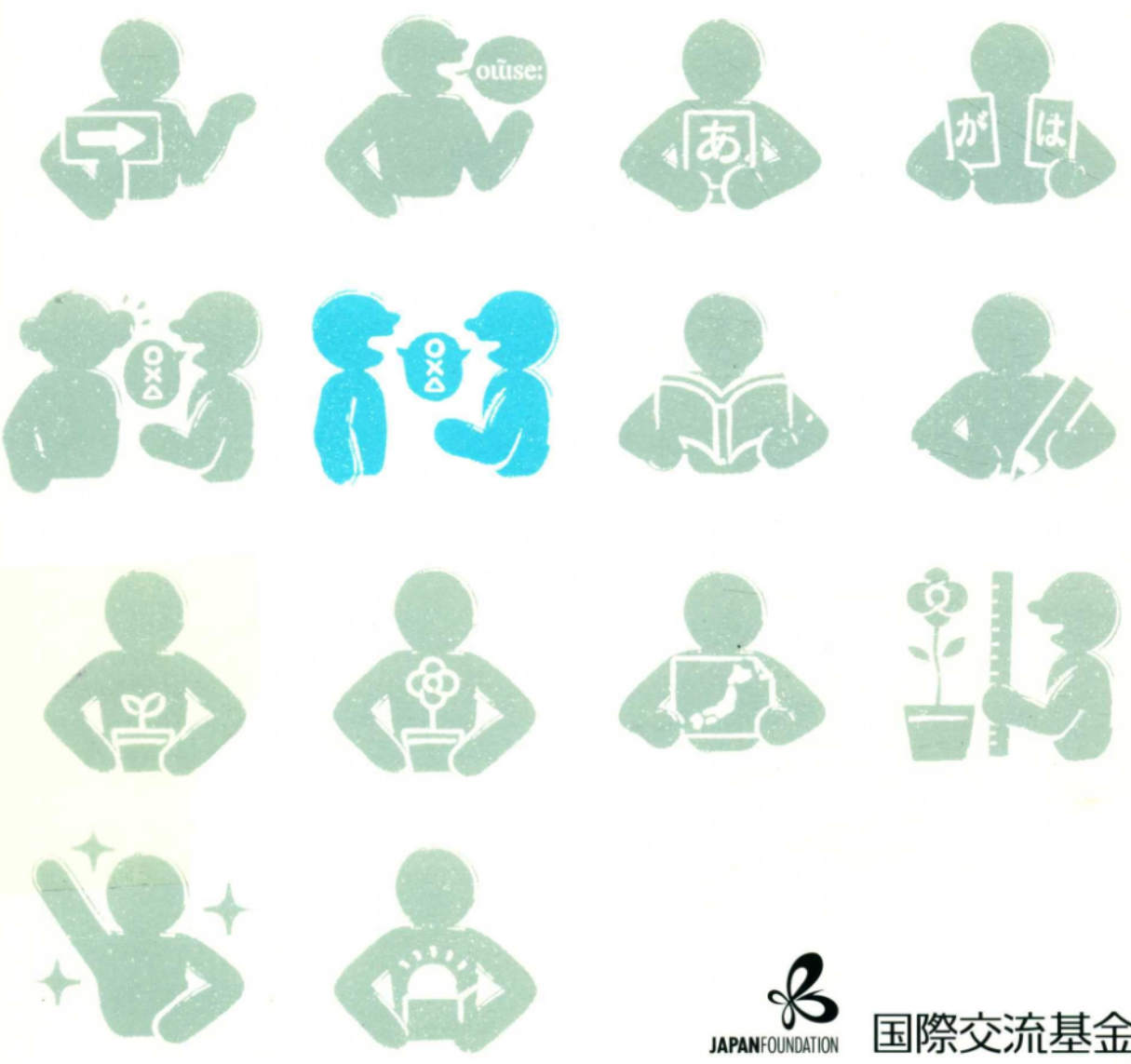
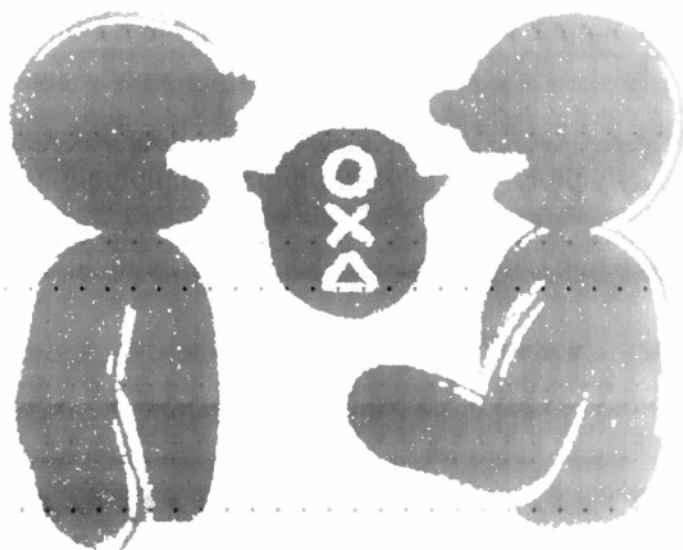


話すことを教える



話すことを教える

国際交流基金 著



国際交流基金 日本語教授法シリーズ

【全14巻】



第1巻「日本語教師の役割／コースデザイン」



第2巻「音声を教える」[CD-ROM付]



第3巻「文字・語彙を教える」



第4巻「文法を教える」



第5巻「聞くことを教える」[CD付]



第6巻「話すことを教える」



第7巻「読むことを教える」



第8巻「書くことを教える」



第9巻「初級を教える」



第10巻「中・上級を教える」



第11巻「日本事情・日本文化を教える」



第12巻「学習を評価する」



第13巻「教え方を改善する」



第14巻「教材開発」

■はじめに

国際交流基金日本語国際センター（以下「センター」）では1989年の開設以来、海外の日本語教師のためにさまざまな研修を行ってきました。1992年には、その研修用教材として『外国人教師のための日本語教授法』を作成し、主に「海外日本語教師長期研修」の教授法の授業で使用してきました。しかし、時代の流れとともに、各国の日本語教育の状況が変化し、一方、日本語教授法に関する研究も発展したため、センターの研修の形や内容もさまざまに変化してきました。

そこで、現在センターの研修で行われている教授法授業の内容を新たにまとめ直し、今後の研修に役立て、また広く国内外の日本語教育関係のみなさまにも利用していただけるように、この教授法シリーズを出版することにしました。この教材の主な対象は、海外で日本語教育を行っている日本語を母語としない日本語教師ですが、広くそのほかの日本語教育関係者や、改めて日本語教授法を独りで学習する方々にも役立てていただけるものと考えます。また、現在教師をしている方々を対象としています。日本語教育経験の浅い先生からベテランの先生まで、できるだけ多くのみなさまに利用していただけるよう工夫しました。

■この教授法シリーズの目的

このシリーズでは、日本語を教えるための必要な基礎的知識を紹介するだけでなく、実際の教室で、その知識がどう生かせるのかを考えてもらうことを目的としています。

国際交流基金日本語国際センターでは、教師の基本的な姿勢として、特に次の能力を育てることを目的として研修を行ってきました。その方針はこのシリーズの中でも基本的な考え方となっています。

1) 自分で考える力を養う

理論や知識を受身的に身につけるのではなく、自分で考え、理解して吸収する力を身につけることを目的とします。

2) 客観性、柔軟性を養う

自分のこれまでの方法、考え方にとらわれず、ほかの教師の意見や方法を知り、客観的に理解し、時には柔軟に受け入れることのできる教師を育てることをめざします。

3) 現実を見つめる視点を養う

げんじつ してん せいの

つねに現状や与えられた環境、自分の特性や能力を客観的に正確に把握し、自分の現場に合った適切な方法を見つける姿勢を育てることをめざします。

4) 将来的にも自ら成長できる姿勢を養う

しょうらいでき せいちよう しせい せいの

研修終了後もつねに自分自身で課題を見つけ、成長しつづける自己研修型の教師を育てることをめざします。

■この教授法シリーズの構成

きょうじゆほう こうせい

このシリーズは、テーマごとに独立した巻になっています。どの巻からでも学習を始めることができます。各巻のテーマと概要は以下の通りです。

- | | | | |
|------|------------------|---|---|
| 第1巻 | 日本語教師の役割／コースデザイン | } | 日本語を教えるうえでの全体的な |
| 第2巻 | 音声を教える | | 問題を取りあげます。 |
| 第3巻 | 文字・語彙を教える | } | 各項目に関する基礎的な知識の整理をし、
具体的な教え方について考えます。 |
| 第4巻 | 文法を教える | | |
| 第5巻 | 聞くことを教える | | |
| 第6巻 | 話すことを教える | | |
| 第7巻 | 読むことを教える | | |
| 第8巻 | 書くことを教える | | |
| 第9巻 | 初級を教える | } | 各レベルの教え方について、総合的に考えます。 |
| 第10巻 | 中・上級を教える | | |
| 第11巻 | 日本事情・日本文化を教える | | |
| 第12巻 | 学習を評価する | | |
| 第13巻 | 教え方を改善する | | |
| 第14巻 | 教材開発 | | |

■この巻の目的

この巻は、普段の会話の授業の中で、どのような会話能力を育てようとしているのかを意識すること、それから、身近にある教材をどのように使えば、会話能力を育成できるのかを考えることを目的としました。

この巻の学習目標は以下の3点です。

- ①「話すこと」とはどんなことなのか、また、「話す力」(会話能力)とはどのような能力からなるのかを考えます。
- ②話す力はどうすれば伸びるのか、また、話す力を育てるためには教室活動がどうあるべきなのかを考えます。
- ③会話の授業をするとき、どのような活動をどのような順番ですればよいのか、そして授業計画や教材をどのように学習者に合わせて工夫し、作成すればよいのかを具体的に考えます。

■この巻の構成

1. 構成

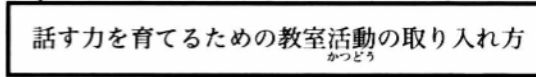
本書の構成は以下のようになっています。

1. 話すこととは

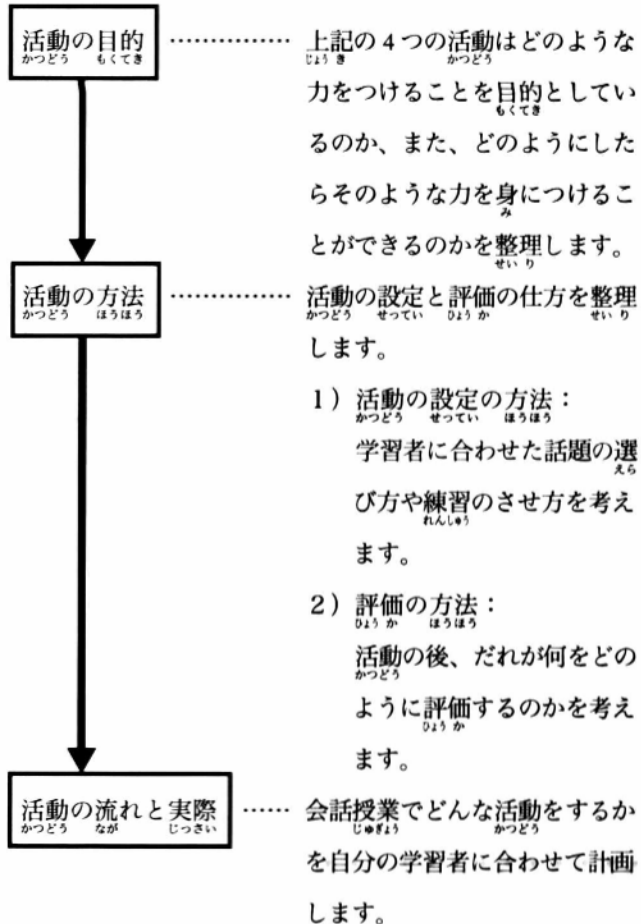


* 話すプロセスや話すために必要な能力について
分かりやすく整理します。

2. 話す力を育てるには



* 「インタビュー」「スピーチ」「ディスカッション」「ロールプレイ」の4つの教室活動を通して、どのように話す力を育てることができるかを考え、学習者のレベルに応じた授業計画を立ててみます。その流れは、以下のとおりです。



2. 各課題（【質問】）

かく か だい

この巻の中の各課題（【質問】）は、次のような内容にわかれています。

かん かく か だい つぎ ないよう



ふり返りましょう

かえ

自分自身の体験や教え方をふり返る

じしん

かえ

知っていること、実際に行っていることなどを思い出し、〇〇について自分はいつもどうしているか、それはなぜかを考えます。



考えましょう

活動や実践の意味を考える

かつどう じっせん

背景理論と照らし合わせながら、教え方、考え方、具体的な教室活動などについて考えます。

はいけい りろん て

く たいてき きょうしつかつどう



やってみましょう

新しい方法を体験する

ほんぽう

実際に活動をやってみることを通して、背景理論や活動のやり方の理解を深めます。

かつどう

はいけい りろん

り かい



整理しましょう

せいり

さまざまな方法を整理し、理解する

ほんぽう

せいり

り かい

ここまで考えたこと、学んだことをもう一度整理して、その目的や意味を再確認し、今後の授業に生かしていけるようにします。

これらの課題は、次の2点を重視しています。

か だい

ほかの人の教え方や新しい方法を知る

ほんぽう

◎グループやクラスで教授法を学んでいる場合：

きょうじゅぽう

ほかのメンバーや教師とのディスカッションを通して、ほかの人の考え方や解決方法

きょうじゅ

かいけつぽうほう

を知り、理解します。協働学習をおすすめします。

り かい

きょうどう

◎独りで教授法を学んでいる場合：

ひと

きょうじゅぽう

まず自分で考えてから、解答例を参考にもう一度考えてみてください。できれば、積

かいとうれい さんこう

せつ

極的に同僚やまわりの人の意見も聞くようにするとよいでしょう。

自分の教育現場への適用を考える

授業設計や教え方を知識として理解するのではなく、常に自分自身の教育現場に当てはめて考え、どのように実際の教育現場で実現させるかを考えるようにしましょう。

